

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 102

江戸川区立小松川第二小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+6	+4	+10	令和8年度の目標	+1	+1	0	0	+2	0	+3	+5
令和7年度の結果	-5	+5	0	令和7年度の結果	-8	-7	+1	-2	+2	+4	+1	+3
令和6年度の結果	+3	+5	+8	令和6年度の結果	+2	-2	+2	+6	0	-3	+4	+3
令和5年度の結果	+2	+1	+3	令和5年度の結果								

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度											
内容	目標			目標達成に向けた取組											
学校全体	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や計算など反復で練習に取り組み、基礎学力の定着を図った。 校内研究で国語科の授業を行い、自分の考えを伝え合い、考えを広げたり深めたりすることを重点的に指導した。それにより、文章を読む力や自分の考えを書く力が身に付いてきた。 算数科では、習熟度授業の実施や学級補習（とことんタイム）を通して、四則計算等の基礎の定着を図った。 国語科・算数科共に活用問題の正答率が低い。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科では、文章を読み、理解する力を高める。 既習漢字が書けるようになる。 朝学習や家庭学習等で読書を楽しみ、本が好きな児童を育てる。 算数科では、四則計算等の基礎の定着を図る。 普段の学習で活用問題に取り組み、活用問題に慣れさせる。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科の文章題では、大切だと思ふところに線を引ながら読み進む取組を実践する。 第4学年からは、「よむYOMUワークシート」を効果的に活用する。 学校共通の読書カードを用意し、目標を達成した児童には賞状を渡す取組をすることで読書を楽しみ、本が好きな児童を育てる。 家庭学習や江戸川っ子スタディウィークの期間にドリルパークを活用し、四則計算等の基礎の定着を図る。 習熟度別授業の指導内容を見直し、発展コースでは、多くの発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組み時間を確保する。 								
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 国語科 丁寧に声を出し、片仮名、漢字を練習したことで、8割の児童が漢字や言葉の問題を解けるようになった。 既習漢字を使って文章を書く力が十分に付いていない。 メモを見ながら文章を書くなどの手立てを行っても、自力で文章を書ける児童が少ない。 算数科 算数科は、足し算や引き算の計算問題を早く正確に解ける児童が8割以上いる。 時刻を読んだり数量を比べたりすることは9割以上の児童ができる。 文章問題の正答率が低い傾向にある。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 既習漢字が書けるようになる。 自分の考えを文章に書き表すことができるようになる。 文章問題に慣れ、解き方を身に付けられるようになる。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 朝学習の時間や江戸川っ子スタディウィークの期間に、児童の理解度に合わせて補助的に学習を行い、児童一人ひとりに合った学習に取り組めるようになる。 文章を書く活動では、話型や書き方の手本を示したり、誤字・脱字・衍字を丁寧に指導することを通して書く力を育てる。 算数科 式を立てるために必要な部分に線を引いたり、問題で問われている部分に波線を引いたりする活動を繰り返し行う。 								
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 国語科 話合いの学習に力を入れたことにより、相手の話を受けて話をつなぐことができる児童が8割程になり、話す・聞く力を高めることができた。 漢字の学習は繰り返し行ってきたが、定着率はまだ十分とは言えない。特に、文章を書くときに既習漢字を十分に使えていない児童が多い。 読書記録カードを作成し、1年間取り組んできたことにより、年間90冊以上読書できた児童が9割程になった。 算数科 足し算や引き算の筆算を正確に解ける児童が8割程いる。 九九は繰り返し検定を行い、昇順では9割以上が正しく唱えることができるようになった。しかし、降順や順不同になると、素早く答えを言えない児童がまだ4割程いる。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 既習漢字が文章の中で使えるようになる。 算数科 全児童が、九九を順不同でも正しく言えるようになる。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 朝学習の時間や江戸川っ子スタディウィークの期間に、児童の理解度に合わせて補助的に学習を行い、児童一人ひとりに合った学習に取り組めるようになる。 九九の定着に向けて、家庭と連携したカードを作成し、保護者の協力を得ながら児童が繰り返し練習に取り組むことができるようにする。また、九九検定を行い、学校長が認定書を発行することで児童の達成への意欲を高める。 								
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 国語科・算数科共に、教科総合の基礎・応用共に全国平均を下回った。 C・D層が6割前後であることから、日常の学習を基盤に年間を通して繰り返し学習することが重要である。 国語科 問題文を読み、理解できない児童が3割程度いる。 算数科 四則計算が身に付いていない児童が3割程度いる。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 文章を読み、理解する力を高める。 読書の習慣を付けられるようになる。 算数科 四則計算を身に付けられるようになる。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 国語科の文章題では、大切だと思ふところに線を引ながら読み進む取組を重点的に指導する。 学校共通の読書カードを使い、目標を達成した児童には賞状を渡す取組を通して、読書を楽しみ本が好きな児童を育てる。 算数科 習熟度別授業の指導内容を見直し、発展コースでは発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組みさせる。 朝学習の時間、江戸川っ子スタディウィークの期間を活用して、課題を絞って、計画的に問題に取り組めるようにする。 								
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 国語科 基礎、応用共に平均を上回った。 教科書の根拠となる文章に線を引く指導を繰り返し、読むことの領域が平均を大きく上回った。 算数科 算数科は、基礎・応用共に平均を下回った。 特に測定領域が平均を大きく下回った。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 読書の習慣を付けられるようになる。 算数科 前年度課題となっている領域を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 学校共通の読書カードを使い、目標を達成した児童には賞状を渡す取組を通して、読書を楽しみ本が好きな児童を育てる。 算数科 習熟度別授業の指導内容を見直し、発展コースでは発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組みさせる。 朝学習の時間、江戸川っ子スタディウィークの期間を活用して、課題を絞って、計画的に問題に取り組めるようにする。 								
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 国語科 昨年度C層だった児童が、B層になったことでAB層の割合が60%を超えた。 書くこと、読むことに関しては国語強化校での取り組みの成果が出て、全国平均を大きく上回ることができた。 話すこと聞くことの領域では全国平均を下回り、言葉・情報・言語文化も平均と変わらないことから言語の力を付けていく必要がある。 算数科 図形領域とデータの活用の領域が全国平均を大きく上回った。 変化と関係の領域は、他の領域に比べて正答率が低かった。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 話す力と聞く力を高める。 算数科 個々の課題を自覚し、学習に取り組み、必要な力を伸ばす。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 話型を用いて話すことや、相手の話を受けて話をつなぐことを重点的に指導する。 算数科 習熟度別授業の指導内容を見直し、発展コースでは発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組みさせる。 朝学習や江戸川っ子スタディウィークでミライシードのカルテを活用し、個人の苦手な内容について学習できるように指導する。 								
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 国語科 基礎は、全国平均を上回ることができたが、応用では下回った。 B・C・D層の児童が学習習慣を身に付けたため、昨年度よりもC・D層が減り、A層が増えた。 読むことの領域が全国平均を下回っている。様々な文章を読む習慣を付けていく必要がある。 算数科 基礎も応用も全国平均を上回った。 数と計算の領域にデータの活用の領域が全国平均を下回った。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 読書の習慣を付け、疑問を調べる際に本を活用できるようにする。 文章を読み取る力を高める。 算数科 個々の課題を自覚し、学習に取り組み、必要な力を伸ばす。 			<ul style="list-style-type: none"> 国語科 本を活用して調べたことをまとめる活動を行い、習慣化できるようにする。 朝学習で「よむYOMUワークシート」を活用し、文章を読み取るができるように段階的に指導する。 算数科 習熟度別授業の指導内容を見直し、発展コースでは発展問題や区から配布されているマスターコース問題に取り組みさせる。 朝学習や江戸川っ子スタディウィークでミライシードのカルテを活用し、個人の苦手な内容について学習できるように指導する。 								